

「ハミング・イン・ウォーター」作：山下由

登場人物

ミドリ

ハル

アキラ

ゆき

いくつかの椅子。部屋の真ん中にはダイニングテーブル。奥の空間には小さな棚があり、簡素な小物や本が小奇麗に並べられている。部屋の壁には押入れがあり乱雑にもが入っている。押入れは古臭くすすけて、そこに押し込まれているものにも規則性はない。劇中時間や場所が度々行き来するのでどこか場所が特定できるような空間ではない。途中挿入される過去のシーンは全て時系列。

基本的には家族が過ごした小さな家(6畳程の部屋が二つあるくらいの借家の一室)がメインとなる。雰囲気としては古く簡素だが明るく採光のある部屋。

1

実家 夜に近い夕方

アキラがそこにいる大きなカバンに荷物をつめている

ミドリがやって来る

ミドリ ごめん遅くなって

アキラ ひさしぶり

ミドリ 母さんなんだって

アキラ ガンだって

ミドリ え？

アキラ 着替えてどのくらい持っていけばいいんだろ。なんかあの黒いラメ付いてる服もってこいとか言ってたけどそんな着られるわけないじゃんね

ミドリ なんのガン？

アキラ 膀胱か肝臓か何かの。笑っちゃうよね。(医者の真似)「ご家族の方ですか？」(その時の自分の真似)「娘です」「お母さんすぐ入院させてください」「はあ。疲労つかか？」「ガンです」「はあ」だって。お姉も手伝って

ミドリ 母さんには？

アキラ 私が言った

ミドリ なんだったって？

アキラ 「めんどくせ」だって。うけない？私笑っちゃった。ガンだって言ってるのにめんどくせだよ

ミドリ それだけじゃないでしょ？

アキラ 私泣いちゃうかともか思いながら言ったのに開口一番がめんどくせだよ

ミドリ 笑ってる場合じゃないでしょ

アキラ 治るって言ってんだから大丈夫だよ。発見が早くて良かったですねだって。うけるよね。全然良くないし！母さんの印鑑どこにあるか知らない？探したんだけど全然見つから

なくて

ミドリ わかんないよそんなの。お金どうすんの？

アキラ 大丈夫じゃん？何か保険入ってたはずだし私も働

くし。あ、この家にも保険かけて焼いちやう？

ミドリ 借家だよ

アキラ そうか借家かー

ミドリ ハルは知ってるの？

アキラ うん。言った。もうすぐ帰るって。いいからもってきてよ印鑑。私どこにあるかわかんなかった。親の下着ってなんか全然見たくないね

ミドリ なにこれ(山用のザックを見つける)

アキラ どれ？

ミドリ これ

アキラ 出てきた

ミドリ どこから

アキラ 母さんの押入れの中から

ミドリ なんでこんなん持つてるの？

アキラ しらない

ミドリ ハルの？

アキラ 違うでしょ？

ミドリ 違うんだ

アキラ ハル兄は引越した時に自分の全部持っていった

ミドリ 誰の？

アキラ こんなの捨てちゃえばいいのにね

ミドリ ねーでもこれが捨てられないから母さんはいつまでたっても母さんなんだよねーそういうところが本当にアキラに

アキラ お姉ちゃんにそっくりだよねー

ミドリ いやいや私じゃなくてあんたでしょ。捨てられないの似てるの

アキラ お姉ちゃん

ミドリ なに？

アキラ 今日のパンツ何色？

ミドリ 何が？

アキラ パンツ。灰色の色気もクソもない形の魚の絵が描いてあるやつでしょ

ミドリ だからなに？

アキラ 高校生の時からはいててゴムヨレヨレのやつでしょ？

ミドリ あきらちゃん。それとこれとは話が違うでしょ？だからって

アキラ やだーお母さんのパンツビロビロもう使えないから捨てちゃおっと

ミドリ あきら

アキラ なに？

ミドリ それはいい。捨てても。でも私のはまだ履けるんだからいいじゃない？パンツも安いもんでもないからもったいないような気がしなくもないけどとは思わなくもないけどね。

母さんはただだらしなくいつまでも物を持つてるだけでしょ？あんたみたいに。でも私は違うの。一緒にしないで。私は大事に使ってるの。あんたや母さんと違って

アキラ あら？この自分に不都合なことがあるとどこまでも問い詰めようとする風景どこかで見たような？あれ？お母さん？あ、おねえちゃんだった

ミドリ ……

アキラ お忙しいところすみませんが、印鑑を探してきてくだらないでしょうか？

ミドリ でもあれは勝手に捨てちゃダメだよ

アキラ うん

ミドリ うん

アキラ はいはい

ミドリ うん

アキラ なんで？

ミドリ なんてって…

アキラ めんどくさいね

ミドリ え？

アキラ パジャマとってくる

ハルが帰って来る

ハル ただいまー

アキラ お兄、久しぶりー

ミドリ おかえんなさい

ハル 母さんなんだって？

ミドリ ガンなんだって

ハル え？結構やばいの？

ミドリ まだ全然わかんない。今から病院行くから

ハル そうか。母さんガンか

ミドリ 治る可能性はあるみたい。もともと身体弱かったからね

ハル じゃあ、そんなに深刻じゃないのかな

アキラ お兄、お母さんの印鑑どこにあるか知らない？どこにあるかわかんなくて

ハル 知らないよ。もう俺ここに住んでないんだから

ミドリ 今あんたしか一緒に住んでないのになんでわかんないの？

アキラ 私達プライベートはお互い干渉しないようにしてるから

ミドリ プライベート！

ハル なにこれ？

ミドリ 押入れから出てきたんだって

ハル 父さんのじゃん

ミドリ そうだよ

アキラ 捨てればいいのにね。そんなもん

ミドリ アキラ

アキラ なに？

ミドリ (ハルに)まだ山登ってんの？

ハル うん。たまにね

アキラ ゆきちゃんも連れて行ってんの？

ハル 一緒にキャンプ行ったりしてるよ

アキラ かわいいそー

ハル 全然かわいそうじゃない。楽しんでるよ

ミドリ ゆきちゃん元気？

ハル 元気だよ

アキラ あんな疲れるのなにが楽しいの？

ハル そこに山があるから

アキラ あれ？寒い。ここ冬山？

ミドリ もういいじゃないそんなのはまた今度で。早く準備しよ。母さん待ってるんでしょ？

アキラ 아이폰を手取る

アキラ ほら噂してたら母さんから電話きたよ(電話に出る)はいはい

電話の向こうから何か沢山話す声が漏れ聞こえる

ハル 母さんなんて？

アキラ わかんない。早く来いみたいなことを沢山喋ってる(電話に)わかった行くから行くから。うん。はいはい、じゃね(電話を切る)

ミドリ ほら早く準備して行ってあげよう。寂しがってんじゃない

ハル 今、印鑑聞けばよかったじゃん

アキラ あ。あははははは

ミドリ はい、私もう一回印鑑探すから(アキラに)あんた。パジャマ持ってきて(ハルに)あんたこれまとめてもらっていい？

ハル はい

アキラとミドリは退場

ゆきの部屋 夜

ゆきが奥で前髪を切っている

ハル お邪魔します。。。

ゆき いらしゃーい

ハル え

ゆき ん？

ゆきは鏡の前ではさみを持って前髪に当てている。ハルの方を見ない
ハルは鞆からペットボトルの水を取り出して一口飲む

ハル 何してるの？

ゆき 前髪切ってる

ハル なんで？

ゆき そういう気分だから

ハル そうなんだ

間

ゆき 気がついてないけど結構こうやって切ってるんだよ

ハル 知ってるよ

ゆき 鉢を置いて前髪を払い、切った前髪を集めゴミ箱に

ゆき ごめん

ハル え？

ゆき こんなときに冗談言って

ハル なにがなにが？

ゆき お母さん大丈夫だった？

ハル あーかあさんねー

ゆき どうしたの？

ハル なんか色々あるね。人生は。あーんまりよくないっばい

ゆき どうしたの？

ハル ガンなんだって

ゆき え、本当に？

ハル うん。でもまあなんとかなるでしょ。心配してもどうにもできないし。大丈夫だよ

ゆき 大丈夫じゃないでしょ？どのくらいの？

ハル それはまだわかんないんだけど

ゆき そうなんだ。

ハル 姉ちゃんとアキラがよろしくって。また家(うち)に来てくださいって

ゆき わたしどうしたらいい？なんかあることができること

ハル いやいや、やめてそんな深刻にならないで。まだどうなるかわかんないから。全然母さん自体は元気そうだったし
でもなんかあつたら言っただけに

ハル うん。ありがとう・・・ってかさー入院とか手術とかに印鑑が必要なんだけど、どこ探してもなくてさ。しょうがないからアキラの印鑑使おうって話になったんだけど、今度
はアキラのが全然なくてさー。あいつ馬鹿だから血判じゃだめなのかとかマジで言っただけさー。でも親指切って血判したらそのまま病院で手当してもらえねってのが面白か
った

ゆき ハル君

ハル なに？

ゆき 話があります

ハル え、なになに怖い話？怖い話だったらその前に今の話全部したいんだけど

ゆき だめ。聞いて

ハル それでさ

ゆき うん。お姉さんがなんとかしてくれただけでしょ？

ハル お。そうなんだよ姉ちゃんが自分の印鑑いつも持ってた

ゆき ごめん。お母さんがこんなときに言うのおかしいと思うんだけど、遅くなっちゃうより今もうぱつと言っちゃったほうがいいと思っ
たに？

ハル 赤ちゃんが出来ました

ハル え？

ゆき うん。言うのが遅くなっちゃたら良くないなと思って今言っただけ。今すぐどうこうってことじゃない。今はちゃんとお母さんの傍にいてあげて

ハル そうか

間

ゆき ああ、ごめんごめんごめん。やっぱり今言うべきじゃなかった

ハル え、え、え

ゆき ホントにごめん。今そんなどころじゃない。間違えた。ごめん、なんかどうしたらいいかわかんなくて

ハルはジツとゆきのお腹を見ている

ハル ここに赤ちゃんがいる

モノローグ

ハル 家族で毎年三倉山の麓でキャンプをした。大きなイチヨウの木の根元が僕らの定位置だった。夜、みんなで囲む焚き火をこっそり抜け出した。空を見上げると、星が降ってきてうなほどひしめいていて、ふいに落ちてきた星に打ち抜かれてしまう妄想をした。星は僕の頭から胴体を貫通して地面にめり込む。星が落ちてこないかと空から目がそらせなくなる。黒い森はザワザワと僕にはわからない言葉でずっと何かを話している。そして急に気がつく。僕は宇宙の中にいる。怖くなって、急いで皆のところに戻った。お姉ちゃんに歌をうたって、アキラは母さんの膝で眠っている。僕が、火が大きくなるのを面白がってイチヨウの葉をくべていたら「あんまり入れすぎるな」と父さんが言った。遠くで鹿の鳴く声が聞こえた。

実家 午前

外で二人の女の言い合う声が聞こえる

ミドリ あんたどうするつもりなの？結婚する気あるの？今度はどんなやつなの？そんなにホイホイホイホイ男変えて真剣に誰かと付き合う気ないの？呆れるよ？同じ血が流れてるとは思えない。だってあの人舌が蛇みたいにベロベロって

アキラ 外見だけで人の事判断しないで

ミドリ 声大きい、ご近所さんに聞こえるでしょ

アキラ それがなんなの？おねえちゃんがこの話始めたんでしょ

ミドリ 静かに

アキラ あーあーうるさくてすみませんでしたね

ミドリ あんたのこと心配してるから言ってるのよ

アキラ 大体その人とはもう別れた

ミドリ もう？それでまた別の人と付き合ってるの？

アキラ うるさいなー

ミドリ 私はただ

二人が入ってくる

ハル お帰り

ミドリ 只今。どう？片付いた？

ハル だいたい

ミドリ ありがとう。あきちゃんちゃんと普段から掃除しとかないとダメだよ

ハル これ食べていいの？

ミドリ いいよ。温めようか？

ハル うん

ミドリ 奥に行く

ミドリ 電子レンジは？

アキラ 電子レンジない

ミドリ なんで？

ハル 前あったじゃん

アキラ 捨てた

ミドリ なんで

アキラ 壊れたから

ミドリ え？え？え？え？え？え？

ハル じゃあいいよそのままでも

ミドリ 待つて待つて待つて待つて待つて

ハル なに？

ミドリ 壊れたの？壊れたっていつ？本当に本当に壊れたの？

アキラ 壊れたよ

ミドリ 壊れたの？

アキラ 壊れたよ

ミドリ 壊したの？

アキラ 壊れたの

ミドリ どのくらい

アキラ このくらい

ミドリ ちゃんと答えて

アキラ おねえちゃん

ミドリ 何？

アキラ 怒るとほうれい線

ミドリ え？え？え？え？え？え？え？え？

ミドリ だってあれ、ねえお母さんから聞いてない？

ハル 何を？

ミドリ あれ私の初任給で買ったんだよ？お母さんが熱燗がすぐできるって喜んでた。ケーキも焼けるよって焼いてあげたらあんなにか焼き魚臭くなっちゃうあの、アキちゃん勝手に捨てちゃったの？

アキラ だって凍ったお米を中に入れるとオレンジ色に照らして360度じっくり見させてくれるだけの機械になっちゃったんだもん

ミドリ 私の初任給で買ったんだよ

アキラ そりゃ年代ものだから壊れるね

ミドリ 直さなかったの？

アキラ 電子レンジって直るの？

ミドリ 直せばね

アキラ でも先立つものがあるんでしょ？

ハル 俺のが壊れたらあげるよ

アキラ やった。あとは先立つものだけあればまた凍ったお米を温められるぜ

ミドリ それを私は汗水流して働いて買ったの

アキラ それはごめん

ミドリ 一言いって欲しかった。そりゃこは今はお母さんとあきちゃんが住んでるところなんだけども、一言いって欲しかった

ハルはお弁当を開けて食べている

ミドリ アキラはそういうところがある。昔から何でもかんでもまだまだ全然大丈夫なものまで捨てちゃって。そういうふうなのが男にも出てるんだよ

アキラ は？なにそれ？そんな関係なくない？

ミドリ 関係なくない。だからホイホイいろんな男とくっついてはまだまだ頑張れば全然大丈夫なのにすぐに別れてまた次の男。モノを大事にできないから人のことも大事にできないんだよ

アキラ お姉が今さつき別れたほうがいいとか言ってたんじゃない

ミドリ そんなのにめげずに頑張らないと本当の愛は見つからないよ

アキラはお弁当に手をつける

ミドリ いろんな困難を二人で乗り越えてやっとなら次やってくるかもしれない大きな困難を一人で乗り越えられるって思えるのに。愛はそんなに簡単に壊れたからって捨てていいものじゃないのに、聞きなさい！

アキラ えーだからってセックスストレスの男と私は結婚できないな

ミドリ二人の弁当を奪い取る

ミドリ 冷たい！冷たいご飯なんて食べてるからそんなに冷たいんだ！毎日毎日冷たいご飯ばかり食べてるんでしょ！？だから心まで冷たくなっちゃうんだ！冷たいご飯なんて食べちゃだめ！

沈黙

ミドリ お母さんはどうしてたの？

アキラ お母さん入院してから壊れた

ミドリ ……

アキラ 何？お母さんの面倒はちゃんと見てたよ。お姉ちゃんと違って

ミドリ なんてそんなこと言うの？私は働いてー

アキラ そうですね私は穀潰しで、お金を払ってるおねえちゃんはえらいですね

ミドリ なんてそんな言い方するの。あんたなんかそういうところお母さんにそっくりだよ

アキラ いいよ私はお母さん好きだから。お姉ちゃんと違って

☆どちらが母が好きで母に尽くしたの言い合い

ハル ねえ ねえ！ ねえ！！

二人言い合いをやめる

ハル やめなよ。母さんいるのに(奥の部屋のほうを指す)

アキラ ほら、怒られた。お姉ちゃんがわけわかんないこというから

ハル 話があるんだけど

ミドリ 何？

ハル 母さんの葬式にさ…

アキラ どうしたの？

ハル 父さん呼ばないか？

二人は硬直する。ゆきが入ってくる

ゆき こんにちはー遅くなってすみません。あ、ハル君

ハル (ゆきに)ありがとう。(二人に)手伝いに来てもらった

ゆき あのだ、この度はご愁傷様でした

沈黙

ゆき え？

過去 実家

ハルは荷造りをしている。ミドリはそれを手伝っている

ミドリ それでその友達どうなっちゃったの？

ハル 小指の第一関節から先が凍傷になった

ミドリ それ切らなきゃいけないの？

ハル まだわかんないって

ミドリ 痛そう

ハル ヤクザみたいだからなんとか切らないで済ませた

いって

ミドリ そういう問題じゃないでしょ。なんでわざわざ寒い時に山なんか行くの？毎年毎年誰か死ぬのに。思わないの？次は自分かもしれないって

ハル 思うよ

ミドリ 思わないですよ

ハル 綺麗だから。冬の山は

ミドリ 父さんみたい。山に登るの

ハル なんて？

ミドリ 昔、手紙でよく来てたじゃん。どどここの山に登りました！みたいなの。真っ白な山の前でつかいGoogleつけてこうやってる写真のはがき。母さんすぐ捨ててたけど

ハル ニュースとかに山で遭難した人が出ると母さんがそわそわして名前が出ると「なんだ違った。死ねばよかったのに」って言うやつでしょ？

ミドリ 母さんあんたが山行ってる時もそわそわしてるんだよ

ハル 死ねばよかったのになって？

ミドリ そんなこと言わない

ハル なんて？

ミドリ なんにも言わない。なんで山なんか登んのかねえって言ってる。ねえなんで？そこに山があるから？

ハル そうそう。そこに山があるから

ミドリ 母さん遅いね帰ってくるの

ハル また仕事かのびてるんでしょ

ミドリ どんなことするの？

ハル どんなことって？

ミドリ フォークリフトみたいなのやつとか運転するの？

ハル さあ。最初はそんなことしないんじゃない？

ミドリ 新人だから手で運ばされるのかな？

ミドリは衣類をたたむのを手伝ってやる

ハル パンツはいいから(ミドリが畳んでいたパンツを取る)

ミドリ よかったの？

ハル なにが？

ミドリ 大学行かなくて

ハル 何回聞くんだけ

ミドリ 行きたかったんじゃないの？

ハル もう就職決まったから

ミドリ いつか行きたいって思ってる？

ハル 思っていないって

ミドリ 勉強好きだったじゃん

ハル そんなわけない。姉ちゃんが勝手に「お前は勉強が本当は好きはずだ。頑張れ頑張れ。」って俺の後ろずっと立ってただけでしょ

ミドリ あはははは、ねえ、手みせて

ハル え？

ミドリ 手

ハル はい

ミドリ 大きいね。いつの間になって感じだね

ハル 何が？

ミドリ いつの間にかこんなに！って感じた。もっと小さかったのに。私のほうが大きかったのに(嗅ぐ)

ハル え？何してんの

ミドリ 待って待って

ハル え？え？え？え？

ミドリ 前は匂いがあったの

ハル なにに？

ミドリ 手に

ハル ないよそんなの

ミドリ あったよ。私毎日嗅いでたんだから

ハル いつ

ミドリ ハルが寝てるあいだに。背中とか指とか足とか膝の裏とか

ハル は？

ミドリ 大丈夫だよ。変なことしてないし

ハル それ変なことだよ？

ミドリ まだ小さかった頃の話だよ

ハル あ、そうかじゃあ変じゃないか、とかならないから

ミドリ お願いちよつと来て

ハル なんて

ミドリ 耳だけ。耳の後ろだけ嗅がせて

ハル 嫌だよ

ミドリ なんでよハル君家出て行っちゃったらもう嗅げないんだから

ハル こっちくんな

ミドリ お願い

互いに「ちよつと待って」「こっち来るな」と追いかけて。ハルは必死の形相だがミドリは終始笑っている。泣いているように見えるかもしれない。息が切れたところでミドリは

立ち止まりうずくまる

ミドリ ハアハア アハハハハ、ごめんね。大学行かせてあげられなくて

ハル だから行きたくなかったんだって

ドアが蹴られるような音

沈黙

ハル え？なに？

ミドリ 隣のおばさん。久しぶりに来たね

ハル どゆこと？

ミドリ ドア蹴ったか石でもぶつけたんじゃない？

ハル え、待って待って

ミドリ あんた昼間いないから知らないだろうけどたまにああやって来るのよ、とりあえず謝り行こう

ハル え？なんで

ミドリ 謝らないと明日多分また石ぶつけられるから

ハル なにそれ？本当に？頭おかしい

ミドリ おかしいとか言わないの。文句言ってきたらいつもこうやって謝ってたんだから

ハル え、本当に？やばいじゃん

ミドリ 行くよ。多分ずっと前に母さんとアキラが大喧嘩して以来だからウキウキしてるよ

ハル 行かなくていいって

ミドリ 横っ突っ立てるだけでいいから

ハル じゃあ俺何しに行くの？

ミドリ 男だろ。こういうのは男も一緒にいたほうがいい
の

ハル

ミドリはハルの衣服を直しながら先に行くように促す

ハルは観念したように、ふてぶてと出口に向かう。その際にミドリが後ろからハルの耳元を嗅ぐ

ハル え？

ミドリ あんまりタバコ吸いすぎるなよ

ミドリは玄関の方へ歩いてゆき、途中で振り向きハルに手招きをする。ハルは呆然としている

過去 アキラとハル

アキラは荷物を投げ捨てハルへ

アキラ ひさしぶりー

ハル おう

アキラ おうおうおうおうおうおうおう！

ハル なんだ

アキラ お兄ちゃん！久しぶり(髪グチャグチャ)元
氣してた？

ハル 元気だよ

アキラ 私にも聞いて

ハル 何を？

アキラ 元気か

ハル 元気？

アキラ それはどうかなー

ハル どうしたんだお前

アキラ すごいね、結構広いね社員寮って言うからもつと狭くて、誰かと共同で二段ベットとかなのかと思ってた。掃除機ある？

ハル なんだ？

アキラ 掃除してあげる

ハル 何しに来たの？

アキラ ここに一緒に住む

ハル 無理

アキラ なんだ？

ハル そういうところじゃないから

アキラ お願い

ハル なんだ？

アキラ お願い。家族で住んでる人だっているんでしょ？

ハル　なんで？母さんは

アキラ　仕事じゃない？

ハル　うん

アキラ　わかんない別にいいんじゃない？何も言わないと思うよ。お兄出てく時だって普通に出ていけたでしょ？

ハル　喧嘩したの？

アキラ　してないよ

ハル　どうすんの？

アキラ　どうすんのか？

ハル　どうすんのかって意味

アキラ　お兄ちゃん

ハル　え？

アキラ　お兄ちゃん。お兄ちゃん

ハル　なに

アキラ　元気？

ハル　うん

アキラ　教えて

ハル　別に普通に元気ってただだよ

アキラ　教えてどう元気なの？

ハル　え？

アキラ　どう？

ハル　は？

アキラ　やって

ハル　やる？やるって？

アキラ　歌って

ハル　何を？

アキラ　どう元気なのか

ハル　意味がわかんない

アキラ　頑張るって

ハル　頑張る？

アキラ　歌

ハル 歌ってなんだよ
アキラ (手拍子で音頭を取る)
ハル どうしたんだよお前
アキラ 歌って！
ハル ええ？
アキラ いいから！
ハル □適当に歌う)
アキラ 何それ
ハル え？元気さ
アキラ どの辺が？
ハル この辺が(元気さの部分をもう一度歌う)
アキラ なるほど。微妙だな
ハル なんだよそれ
アキラ へっへっへ
ハル ……
アキラ 彼氏が出来たんだー
ハル おめでどう
アキラ またかよーって思ってるでしょ
ハル そうだね。まただね
アキラ でもね、違うんだよ
ハル なにが
アキラ あいつは違うの
ハル どう違うの
アキラ 私のこと大事にしてくれるの。私のもっと好きになりたいって言ってくれるの
ハル 気持ち悪いなお前
アキラ もっと言って
ハル ノロケ顔が気持ち悪い
アキラ うわー私キモイんだー。(携帯を取り出してインカメラで自分の顔を確かめる)本当だキモー。でねーその人はね手をつないで歩いてくれるんだよ
ハル 普通だから
アキラ うん。私も手をつないで歩いたことあるの初めてじ

やない

ハル 何言ってるの？

アキラ でもね。違うの。その人は今までの人とは全部違うの。手をつないで歩く一歩一歩が。それから目を見て話してくれるしね

ハル それも普通だから

アキラ それは嘘だね。エッチしたいときだけだよ男が目を見てくるのは。服を脱がす前のキスの前だけジーンって。濡れてんだろお前もみたいな目

ハル 別に聞きたくないよそれ

アキラ お兄だつてそうだよ。目を見て話してなんかないよ

ハル そいつと一緒に暮らせばいいだろ

アキラ その人と一緒に暮らしたいから家を出たいの

ハル ……

アキラ いきなり一人で暮らしたり、誰かと暮らしたりできないから

ハル できなくないよ

アキラ できない。わかるの

アキラ だめ？

ハル どうだろう

アキラ なんで？家族で住んでる人もいるでしょ

ハル ここに住んでそれからどうすんの？母さんはなんか言ってるの？

アキラ 大丈夫大丈夫。母さん一人でせいせいでよ

ハル 姉さんは？

アキラ ダメ？

ハル なんでそいつと暮らすのにここで暮らすことが必要なの？

アキラ 私、実家以外で暮らしたことないでしょ？誰か他人と暮らすことができるかどうか考えてみたの。私この人とのことは大事にしたいの。だから。花嫁修業みたいなもんだよね。

お兄

ハル いやいやいやいや。どこだと思ってるんだよ。単身用社員寮だぞ

アキラ お兄ちゃん、私本気なんだよ。今のままじゃ絶対うまくいかない。私は私のことわかってるから。でもこの人とはなんとかなりたいのよ。だから家を出たいの。ちゃんと誰かと生きられるようにしたいの。お願い

電話がかかってくる。ハルが電話を手取る

ハル 姉ちゃんから

アキラ でなくていいよ

ハル (電話を取る)もしもし?うん。どしたの?うん、うん。大丈夫だよ。うん。ここにいます。ちよつと寄ってくれたみたい。うん。大丈夫だから。そんな怒らないであげて。わかった。わかったから。うん。じゃあね。はい。(電話を切る)もう三日帰ってないの?

アキラ いいなーお兄ちゃんは

ハル なんて?

アキラ 女三人暮らしは息が詰まるんだよ

ハル 他人と暮らしてるわけじゃないんだから

アキラ 他人じゃないからだよ。ねえなんでだめなの?ちゃんと話してよ?

ハル 今日は帰りな。とりあえず

アキラ 私の何が悪いの?

ハル アキラは悪くない

アキラ じゃあ何?

ハル ごめん。一緒に住むことは出来ない

モノローグ

ハル 夜。一人公園を歩いている。夜の公園の木々は立ったまま眠りについていて。傍を歩いても目を覚まさない。公園で一番大きな木の虚(うろ)にもぐりこむ。小さな動物になって世界を見上げる。葉がザワザワと鳴る。どんな季節でも木の肌は温かい。

ハルは押入れの中に潜り込み、空を見上げるような仕草

川のせせらぎ、虫の鳴く声、遠くで若者たちが騒いでいる声　ハルは一人で座っている

ゆき　何してるの？

ハル　何もしてないです

ゆき　あっち行かないの？

ハル　あ、ちよつと疲れちゃったんで

ゆき　みんな元気だよ

ハル　そうですね

ゆき　部署のオリエンテーションでキャンプなんて体育会系みたいだよ。みんな家族とか連れてきちゃって

ハル　前の部署はこういうのなかったんですか？

ゆき　ないない。この部署だけだよ。いっつもこういうの？

ハル　そうですね

ゆき　初めて話したね

ハル　はい

ゆき　テント立てるの上手だね

ハル　ありがとうございます

ゆき　こういうのやった事あるの？

ハル　何度か

ゆき　へー意外。あ

ハル　え？

ゆき　蛍かな？いま。光った。ね？あはははは蛍かな？

ハル　わかんないです。蛍なんかいるんですか？

ゆき　どうだろうね。蛍はきれいな水がないと生きていけないんだって。この川はきれいなのかな？

ハル　あの

ゆき　なに？

ハル　いいんですか？ここにいて

ゆき　何が？なんで？

ハル　部長とかがー

ゆき 部長がどうしたの？

ハル え、あのー、部長と先輩はあれなんですよね？

ゆき なんでそういう風に思ったの？

ハル なんとなく

ゆき 言っちゃだめだよ

ハル はい

ゆき もう別れたんだけどね

ハル え

ゆき だから居づらいんだ

ハル 何で別れたんですか？

ゆき 仕事楽しい？

ハル はい

ゆき そうなんだー

ハル 楽しくないんですか？

ゆき 楽しくなんかないよ

ハル 何ですか？

ゆき あー、これが一生続くのかー。って思うから。でも君は多分大丈夫だよ

ハル 何で泣いてるんですか？

ゆき え？私？今？今、全然泣いてないよわたし

ハル すいません

ゆき 泣いてるみたいだった？

ハル いえ、全然。なんか話さなくちゃと思って

ゆき 泣いてるほうがよかった？

ハル いえ、泣かないでください

ゆき 変だねキミ

ハル

どちらも何も言わない時間

蛍を探すようなそぶりのゆき

そのゆきを見つめていることがばれないように見つめるハル

遠くて若者たちの歌う声、手持ち花火の音 花火の方を見るユキ

ゆき ほら部長の子供が呼んでるよ

現在 実家 夕暮れ 女性陣三人は奥の台所

☆ミドリとアキラがなにか母の話をしたり、「手伝ってくれてありがとう」みたいな話をしている。ゆきがその輪に入って「えーそうだったんですか？」とか言ってる三人は話して

るまま遅れてアキラとゆきが出てくる。

ハルはその輪から外れたところで一人座っている

ミドリ きつと母さんもアキラちゃんありがとうって言ってるよ

アキラ そんな事いわない、ありがどうなんて聞いたことないあの人の口から。今日だつてみんなが来て「うるさい、生きてるときに殆どこないで死んでから集まってるから。」つと

か
言ってるよ

ミドリ なんてそんなこというのー

アキラ 家いたらうるさいのは母さんのほうだったけど

ミドリ 聞こえるよ(奥の部屋を見る)

アキラ 聞こえないよ、死んじゃったんだから

ハル あのさ

ゆき ん？

ミドリ なに？

ハル えっと

ミドリ うん

ハル ふー

ミドリ うん

ゆき どうしたの？

ハル そうなんだけど

アキラ 何が？

ハル うん

ミドリ お茶でも飲もう？お湯沸かすから

ゆき 私入れてきます

アキラ やかんない
ミドリ あれ、私のおこ
アキラ わかったわかった、ごめんごめん

沈黙

ミドリ 隣のさ。おばさんってまだいるの？

アキラ ……

ミドリ 猫たくさん飼ってて。(ゆきに)出かけるときいつも睨んできて、髪が魔女みたいにぼわぼわな

ゆき あーそうなんですか。こわいですね

ミドリ 子供があんまり好きじゃなかったみたい

アキラ まだいる

ミドリ そうなんだ。知らせた？

アキラ 何を？

ミドリ 母さんのこと

アキラ 知らせてない

ミドリ そうなんだ。ご近所さんまだ挨拶回れてないってこと？行ってこよらかな私。この辺も久しぶりだし

アキラ ご近所さん昨日回った。町内会長とも行ってきたし

ミドリ え？隣のおばさんは？母さんとよく話してたのに

アキラ 話してたんじゃない。向こうの植木がこっちに入ってるとか入ってないとか、猫がこっちの敷地に糞するとか糞なんかしないとかで喧嘩してたの
ハル なあ

アキラ さっき話しついたらよー

ハル ついてない

アキラ 私はいやー

ハル そうなんだけど

アキラ そうなんだけど？

ハル どうにかならないかな

アキラ なんて？

ハル なんてってだからさっきから言ってるじゃん

アキラ えーわかんない。私それじゃ。関係なくない？その人

ハル 関係なくはないよ

アキラ えーどう関係あるー？

ハル 父親じゃん

アキラ 私たちに父親なんかいなかったでしょ？この家には最初から母さんと、お兄お姉、私。でしょ？

ハル アキラ

アキラ お葬式の話しちゃんとしよう？時間ないよ？ほらもうお葬式の打合せしに業者さん来ちゃうよ。お花のこととか、受付誰やるとか、お母さんの親戚の人あったことないけど連絡するの？とかとかほらこういう話はお兄とかお姉がいつつも率先してくれるじゃん。どうしたの？今日ユキさんだっているんだよ

ハル お前だつて一緒に住んでた時期あるだろ

アキラ 覚えてない

ハル 覚えてないわけ無いじゃん

ミドリ またそれは始めるの？やめなよ(ゆきに)すみません

ゆき あ、でもわたし、全然、大丈夫です、帰ります

ハル いいから。いて

ゆき でも、ちよつと、ハル君

アキラ 本当もうやめなつて本当にゆきさんも困ってるし

ハル もう他人じゃないから

ミドリ 他人じゃないつて言つたつて

ハル 俺たち子供出来た。結婚する。だから彼女はもう他人じゃないから

沈黙

ミドリ ホントに？

ゆき はい、え、はい。そうなんですけど。。。

ミドリ えーおめでとう

ゆき すみません

ミドリ えー、そっか。。。母さんに報告しとく？

ハル 今いいから

ミドリ でも

ハル あの人、母さんの葬式に呼べない？

アキラ つづけるー

ハル なあ

アキラ 私その人に母さんの葬式に来て欲しくない

ハル なんて

アキラ 関係ないから

ハル 関係なくはないよ

アキラ (奥の部屋に)母さんいやだよねー?

ハル 母さん持ち出すなよ

アキラ 持ち出すよ。母さんが嫌がってた人だよ?

ハル そんなことわかんないだろ

アキラ わかるよ。私母さん面倒見ながらずっと一緒に暮らしてた。外でたお兄よりわかる。そんなこと。どしたの急に?今までそんなことなんにも言わなかったじゃん

ハル 言わなかっただけで思ってたわけじゃない

アキラ なにを?なんで?どうして?

ハル どうしてって

アキラ どうして?ねえ、なんでそんな事急に言い出したの?

ハル 別におかしいことじゃないじゃん。来れるか来れないかは別にして父親なんだし。旦那なんだし。死んだことぐらい知らせてやっただけいいでしょ?

アキラ もう知らせたの?

ハル 知らせてないけど

アキラ ーごめん、気持ち悪い

ハル 何が?

アキラ お願い知らせないで

ハル 知らせてやるくらい何が悪いの?

アキラ 関わりたくないのあの人と。もう

ハル かかわらなくていいよ。知らせるだけ。来ないって。来たとしたって、どっか隠れてどっか行くの待ってればいいじゃん

アキラ あはは、だから意味わかんないじゃん。なんのためにそんなことしなくちゃいけないの?

ハル だからその方がいいんだって

アキラ 何がいいの?

ハル 元々夫婦だったんだから。母さんのこと知らせてやることの何が変なんだよ

アキラ おかしいに決まってるでしょ?向こうが勝手に出て行ってから、まともに会いに来たこともなくて、連絡だって一方的にたまりに送られて来るわけわかんない手紙だけなんだよ?

ハル でも普通はさ

アキラ 普通って。法律的にも関係ないんだから別に後でなんか知ったってトラブルになるわけでもないじゃん
ハル だからそんなんじゃないよ

アキラ 棚から一通の手紙を持ってくる

アキラ (封を開ける。)
「拝啓、急にさむくなってきましたがいかがお過ごしですか？色々と苦勞をかけてしまいましたね。人それぞれに、色々な境遇を抱えています。自分の与えられた運命を力強く生きていくしかありません。お母さんは弱い体で頑張って働いてあなたたちを育ててくれました。感謝しております。みんな寂しい思いに負けないように、人を大切にして生きてます。健康で強い体を与えられたことを神様に感謝してください。毎日、祈っています。これから寒くなります。体に気をつけてお過ごし下さい。敬

具

ミドリ 何それ？

アキラ この前送られてきた手紙。あの人から

ハル ！

アキラ クリスチャンになったんだよ。(ミドリに)知ってた？

ミドリ 知らない

アキラ うけるよね。クリスチャンって。神様に祈れば許してもらえるのかな？何に祈ってるんだろうね

沈黙

ゆき 忘れてないってことじゃないですか？。皆のことも。自分がしたことも

アキラ え？

ゆき あ、すいません。なんか

ハル いいって

ゆき いいってなんだよ。あなたがここにいてって言ったんでしょ

ハル うん

ゆき ごめんなさい。なんか。わからないんですけど。ごめんなさい、関係ないのに

ミドリ ハル君の言ってることわかるよ。でも別にこれでやってきたんだから今更恥ずかしいとも思わないと思うけど。私は来てもらってもいいと思うし。なんにもお構いはできないと思うけど。来てもらわなくてもいいとも思ってる。あの人にもあの人今の家庭があるんだし

沈黙 雨の音

ミドリ あ、雨かな？(ゆきに)ありがとね。ゆきさん。(ハル、アキラに)母さんの部屋、窓閉めてくる

ミドリは奥の部屋へ ミドリが動くのと同時にアキラも立つ。ミドリより先に部屋を出てゆく

ゆき 色々。無理やりで何とかなる問題じゃない

ハル うん。ごめん。

ゆき 結婚の話も突然すぎるし

ハル ごめん。ちゃんと話さないよ、と思って

ゆき 全然ちゃんとしてじゃないよ。あんなタイミング。でもわかった。私、今日は帰るね

ハル うん

ゆきはハルの肩口に触れ出てゆく

ゆき(声) お姉さんすみません。今日はお暇させていただきました

ミドリ はい

二人は奥で聞き取れないくらいの声で少し話し、静かになる

ハルは一人取り残される

過去 実家

ハルは部屋のたんすなどをあさっている
そこへミドリ。ハルを黙って見ている。携帯灰皿の中のタバコの火を消すように揉んでいる

ミドリ 何してるの？

ハル あ、もう？

ミドリ まだだよ。でも母さんもう寝ちゃった。がんばって起きてたけど

ハル 郷ひろみ見れた？

ミドリ 郷ひろみ出てくる前に寝ちゃった

ハル アキラまだ帰らないの？

ミドリ うん。友達とそのまま初詣行くんじゃない？

ハル うわ。三時間くらい並んで？

ミドリ 明日母さん連れて行ってみる？

ハル 近所の小さいほうでいいよ

ミドリ お蕎麦ゆでたら食べる？

ハル 食べる食べる。そのためにんぷら買ったんだから。つてか姉ちゃんタバコ吸ってたの？

ミドリ たまにね。旦那には内緒だけど。生理のとき吸うとちよっと軽くなる

ハル へー

ミドリ あんたも吸ってたでしょ？高校生の時。母さんに隠れて。あればれたよ

ハル 知ってるよ

ミドリ ずっと何探してるの？

ハル 俺のちっちゃい頃のやつとかってどっかあった？母さん捨てたのかな？

ミドリ あれはどっかにあるんじゃない

ハル 色々小学校のやつとか写真とか

ミドリ あーアキラがわかるかな。私はよくわかんないけど

ハル そっか

ミドリ どうしたの？そんなの探してるの？

ハル うん

ミドリ なんて？

ハル なんか手紙とかあったじゃん。ああいうのも全部手紙？

ハル 年賀状とか色々他にも来てた手紙

ミドリ なんてなんで？どうするの？

ハル いや、ちよつと

ミドリ どうすんの？誰かになんか送るの？

ハル そういうわけじゃないけど

ミドリ じゃなんで？

ハル なんてってことないけど

ミドリ ハル君父さんに会いに行こうとしてるでしょ？

ハル ……

ミドリ 何しに？

ハル ……話ししに

ミドリ なんの？

ハル さあ

ミドリ お金だったら前に断られてるでしょ？私少しだけたら貸せるよ

ハル 別に金が必要なわけじゃない

ミドリ じゃ何しに？なんで行くのか教えてよ

ハル ダメなの？

ミドリ ダメなことじゃない。理由だけ教えて

ハル 姉さんには関係ないこと

ミドリ ハル君。関係なくないよ

ハル ……

ミドリ 私ね結婚したでしょ？

ハル ……

ミドリ 向こうには父親のこともうどこにいるかもわからないってことにあるの

ハル 別に姉さんの結婚した人に会いに行くわけじゃない

ミドリ もう関わって欲しくないの

ハル それはあなたの人生にでしょ

ミドリ そう

ハル だから関係ないじゃん

ミドリ 関係なくない。お願い。あなたに会いに行つて欲しくないわけじゃなくて私はもうあの人には関わりたくないの

ハル え？だから関係ないじゃん

ミドリ 私の人生にも。あなたにも。アキラにも。母さんの人生にも関わって欲しくないの

ハル それはあなたには選べない

ミドリ そのあなたっていうのやめて。母さんとあの人が喧嘩する時にお互い「あなた、あなた」って言つてたみたいだから

沈黙

ミドリ 母さん今でもたまに手紙書いたりしてるんだよ。母さん宛に返信なんか来ないのに。なんでそんなことするんだろうね。非常識だよ。向こうにはもうとつくの昔に奥さんだつて子供だつているんだよ。知ってる？

ハル 何を？

ミドリ アキラ子供の時お母さんの手帳勝手に見てお父さんに電話かけたことがあるんだよ。そしたら電話をとつたのは小さい男の子だつたんだつて。ね。知ってた？ハル君には弟がいるんだよ

ハル 知ってたよ。手紙くらい何年か前までうちらだつて出してたでしょ

ミドリ うん。返信と一緒に手作りのパン送ってきたね

ハル うん

ミドリ この前送ってきたのより美味しいわねとか母さん言ってたね

ハル うん

ミドリ どういう神経してんだろうね。見たあの顔。パンも作れる家庭的なうちの旦那つて顔だったよ

ハル ……

ミドリ 何にも思わなかった？私あれ食べたあとこつそり外行つて隣の猫屋敷のエサ入れに吐いてやったんだ。何なんだろうね。いつまであんなこと繰り返すんだろうね。人はあれだね。自分が何をやってるのかとことん見えないんだろうね。だつてそうでしょ？おかしいよねやつてること。あんなにうちらが子供の頃から毎日最低なやつとか言つてお風呂の時間に、なんだつて？お風呂の時間と寝る前の時間とご飯の時もだつて？パ。パイタイム。パ。パイタイムあつたじゃん。ずっとあの人の悪口。捨てたとか浮気された

とか。なのにお金がもらえらるからとか、お父さんに戻ってきてもらったほうがあんたたちもいいでしょうとかいって手紙書かされて。私子供の頃は自分が本当に会いたくて戻ってきて欲しいと思つてたけど、途中から母さんが会いたくだけで私そうでもないなつて思い始めたもん。ハル君は自分で大学行きたくないつてすぐ働いたけど、アキラは行きたいところがあつてもアキラの専門学校のお金出してくれなかつた時にあーもう意味ないこれーつて感じたつたよね？手紙また書けば大丈夫とか言つてたけど、もう振込期日すぎて。私次の日仕事行つてきますすごい辛かつたんだよね

間

日が変わつて遠くの除夜の鐘が聞こえる

ミドリ あけましておめでとう

ハル おめでどうございます

ミドリ ハル君。アキラのことよろしくね。私本当にアキラのこと心配なの。母さんのそばにいてあげてるみたいなこと言つてるけど実際そばにいてあげてるのは母さんの方だし、続かない恋愛ばかり続けてどうするんだろうね。知ってる？あの子の新しい人？舌がベロベロつて蛇みたいなんだよ。キスしたときのこと考えたら気持ち悪くない

ハル 大丈夫だよ

ミドリ 何が

ハル アキラは大丈夫だよ

ミドリ なんて

ハル わかんないけど

ミドリ 何それ

ハル 大丈夫なんだなつて気がした

ミドリ あつたの？

ハル アキラね

ミドリ うん

ハル うん

ミドリ 大丈夫じゃないんだよそれが

ハル どうしてわかるの

ミドリ わかるんだよ・・・ハル君

ハル 何？

ミドリ わかるでしょ？

ハル うん

ミドリ うん

ハル わかる

ミドリ ありがとう

ハル ……でも。だから会った方がいいと思った

ミドリ なんてやねーん

ハル ……

ミドリ ……なんで？

ハル ……

ミドリ どうして？

ハル ……

ミドリ 私にはわからないことがあるの？

ハル ……

ミドリ 難しいの？

ハル ……

沈黙

ミドリ ねえ、ハル

ハル ん

ミドリ 私、母さんに似てる？

ハル わからない

ミドリ そ

ハル うん

ミドリ ハルは自分のこと父さんに似てるって思う？

ハル なんて？

ミドリ 似てるって顔とかってことじゃなくて

ハル あんまり覚えてない

ミドリ そうだね。忘れちゃうよね

ハル ……

ミドリ ……ごめん。どこにあるかわかんないけど、どこかにあるから自分で探してみて。手紙

ハル 姉ちゃん結婚したでしょ？

ミドリ そうだよ

ハル そうだよ。結婚していつか子供が生まれてその子には父さんがいて、姉さんはこれが父さんだぞって、その人に子供抱っこしてもらって、そのうち妹か弟が生まれて、みんなで公園行ったり神社に行ったりして、誰かと誰かが喧嘩して、それを姉さんは止めるんだけど、止められなくて。そしたらその子達の父さんがヤメろ！バカたれ！とか言っって叱ったりするでしょ？

ミドリ 何言ってるの？

ハル だから姉さんも会いに行かない？

ミドリ ダメだよ

ハル 行こう

ミドリ そうしなきゃダメだって思ってるのはあなただけでしょ？

ハル 姉さんだってそう思ってるでしょ？

ミドリ 決めつけないで。聞いてた？私はもう二度と。二度とあの人と関わりたくないの。大丈夫？

ハル 何が

ミドリ あなた変よ？急にそんなこと言いだして？そんなことして何になるの？意味ないよ？あるような気がするでしょ？会えば自分の中の何かが解決するんじゃないか、変わるん

ハル 意味がないかなんてわかんない
じゃあ、いつまでそんな事してるの？？会いに行くことなんでもっと前からできたのになんで今頃迄？わかってたからでしょ？意味がないの

ハル ……

ミドリ ……

ハル ……

ミドリ ハル。いつまでそんなところにいるの？

ハル そんなところって？

ミドリ そこよ、そこ！

ハル え？

ミドリ 人間はね、ハル。前に進まなきゃ。そんなところにいつまでいたってどこへもいけないんだよ？

ハル お願いだからそんなことにいつまでもこだわらないで。大人になって

ミドリ ……

ミドリ お蕎麦ゆでてくる

ミドリ ……

ミドリ ……

ハル 一人残される

過去 ハルの部屋

誰かがドアをノックする音。ハルはノックの先を探す。動かないまま。ノックは何度も聞こえてくる。やっと動き出してドアを開けに行く

ゆき おじゃまします

ハル はい、どうぞー

ゆき あけてよすぐに

ハル ごめんごめん

ゆき ご飯食べた？

ハル まだ。食べた

ゆき 私は食べた。なんか食べる？

ハル いらない ありがとう

ゆき お帰り

ハル ただいま

ゆき 会ってきたんでしょ？

ハル はい、これ

ゆき なにこれ

ハル おみやげ

ゆき めんたいこだー。どんな人だったの？写真は？

ハル 撮ったけど向こうのカメラで撮った。そのうち送られてくると思う。結構普通の人だった。サラリーマン

ゆき 何年ぶりだったんだっけ？

ハル 何年だろ。20年くらいじゃない？

ゆき すごいね。大人が一人できちやうくらいじゃん

ハル それで俺が大人になったじゃん

ゆき なんて呼ぶのそういう時

ハル なんだろうね、お互い呼ばずに会話するのを探ってる感じだったよ

ゆき お父さんとか親父とか言わないの？

ハル 言わないよ。「おーなかなかえー男じゃない」って言った。どっちにしてもお父さんっていうか、普通の知らないおじさんって感じだった
ゆき 泣きながら抱き合うとかは？

ハル ないない。向こうも俺も何話していいかわかんなくて困ってた

ゆき どんな顔してた？

ハル なんか笑ってた話すことないのに

ゆき 嬉しかったんだよ

ハル そう？

ゆき そりゃそうでしょ。お姉さんたちは会いに行かなかったの？

ハル あの人たちは嫌なんだよ

ゆき 言っけないの？

ハル 言っけないよ

ゆき なんで？

ハル 言わない方がいいかなと思って。色々あるから。いいんだよあの人たちのことは

ゆき そうか

ハル うん

ゆき よかったと思う。私は

ハル 何が？

ゆき ハル君がお父さんに会いに行っ

ハル 何が良かったの？

ゆき ずっと行けなかったけどやっと行けたんでしょ？行けばいいことじゃないと思うけど、そんな風にずっと会えてなかった家族にちゃんと会いに行くこと選べたのはすごくいいことだと思う。私はあなたがそういう人でよかった

ハル うん・・・なにそれなんかアメリカ人みたいだね。「私はよかったと思う。」みたいな

ゆき 真面目に聞けよ

ハル 聞いてるよ

二人は手を握り合っている

過去 ハルの部屋

ハル どうしたこんな時間に？

アキラ ごめんね急に

ハル いいけど

アキラ ちよつとフラフラしてたらあ、ハル君の寮じゃん

つて。ごめんね、明日も仕事早い？

ハル どうしたの？

アキラ ビールとかない？(床に転がる)

ハル 酒飲まないから

アキラ つまんない男

ハル 髪汚れるぞ

間

アキラ ごめんやっぱりちよつとダメかも

ハル え？

アキラ お兄ちゃん私ちよつとやっぱりダメだ

ハル どうしたの？

アキラ なんでなんだろう

ハル 何が？

アキラ 別れちゃったよ

ハル あの彼氏と？

アキラ ・・・

ハル なんで？

アキラ 別れようって言ったから

ハル 自分から？

アキラ うん

ハル なんでそんなこと言ったの？

アキラ 幸せだったから

ハル は？

アキラ わかんない？

ハル わかんない

アキラ お兄ちゃん

ハル なに？

アキラ 私おかしなのかな？

ハル 何が？

アキラ 私、幸せだよ

ハル うん

アキラ お兄ちゃんがいて、おねえちゃんがいて、お母さんがいて。服が着られて。食べることができて、友達もいて。彼氏もいた。ずっとずっと一緒にいようって言うてくれた。ちやんと。ちゃんとだよ？そんなこと言うてくる奴死ぬほどいたけどちやんと言うてくれたのはあの人だけだったの

ハル うん

アキラ 朝目が覚めるとあの人の胸がここにあるの。空気を吸って大きくなって、空気を吐いて小さくなって。私は耳をすましてその音をずっと聞くの。ずっとずっとその音を聞いてるの。太陽が部屋に差し込んで来て飛んでるホコリがキラキラに光ってあの人に合わせて上に行ったり下に行ったりしてるのを見るの

ハル うん

アキラ それで私は思うの

ハル なんて？

アキラ ああ。私、明日の朝もここで目覚めたいなって

ハル じゃあなんで

アキラ なんで？なにになんで私さみしいの？あの人が私のこと大事にしてくれればしてくれるほど寂しくなって。ああいつか私この人のこと大事にできなくなったらどうしようって思う

ハル そんなこと思うなよ

アキラ 私あの人と別れちゃった

ハル なんでそんなことしたの

アキラ なんで私はこんななの？

ハル ……(ハルはアキラを抱きしめる)

アキラ お兄ちゃん私、普通に生きたいだけ(アキラもハルを抱き返す)

ハル うん

アキラ 私、普通に生きていきたいだけ

ハル うん

アキラのすすり泣きだけが静かに部屋に響いている

ミドリが花を持ってそこに立っている

アキラ 何それ？

ミドリ 隣のおばさんがくれた。お母さんにつて

ハル ……

ミドリ どっかに花瓶あったっけ？

アキラ わかんない

ミドリ 前あったと思うけど アキラ捨てたでしょ？

ミドリ花瓶を探している 動きを止めて壁にもたれかかる。アキラがそれをみてミドリに駆け寄る

アキラ どうしたの？

ミドリ …… 母さん本当に死んじゃったんだなって

ハル やっぱダメだよ。こんなんじや

アキラ 何？

ハル ダメだよこのままじゃ

ミドリ 何がダメなの？

ハル 呼ぼう。父さん葬式に

ミドリ まだその話しなくちゃいけないの？

ハル しなくちゃいけないよ。ダメだよ。もう一生会えなくなるきつと。俺たちも、父親とも。あいつが俺とかアキラとか姉ちゃん、母さんの顔見れる最後のチャンスだよきつと

アキラ 見せたくない

ハル 見せなくてもいいから死んだことだけでも知らせてやろう

ミドリ 来て欲しくないから知らせてないんでしょ？

アキラ 母さんの顔を見せたくない

ハル なんてだよ

アキラ なんてってそんなことはお兄が一番わかっていることだよ

ハル なんてだよなんで、なんでなんで

ミドリ あんたお父さんに会いに行つてからおかしいよ

アキラ 会いに行ったの？

ハル 会いに行つたよ

アキラ なんで

ハル なんでなんでって何がなんでなんだよ、どうするんだよずっとこやうやって生きてかなくちゃいけないのか！わかってるよわかっている。あんたらが言いたいことなんかあんたらの百倍もわかっているよ

アキラ わかつてない

ハル わかつてる

アキラ わかつてない

ハル わかつてるって

アキラ わかつてないからそんなこと簡単に言えちゃうんでしょ？

ハル 簡単に言ってるわけないだろ

アキラ じゃあなんでそんなこと言えるの？あの人たちに何があつたかなんてどうでもいい。離婚して、軽々しく結婚して子供作って、それってそんなに簡単なことなの？責任がいるでしょ？覚悟がいるでしょ？なんで家族を捨てといてまたどこかに家族が作れるの？会いに行つたんでしょ？何しに行つたんだかわかんないけど話してきたんでしょ？謝ってた？泣きながら土下座してた？言つてやった？あんたがいなかったから母さんの苦勞してる姿を見るのも辛かったし、友達からいじめられても笑つてなきやいけなくて、なんで私がつていつつも思つてた。みんなと楽しそうに笑つてアキラちゃんはいつも笑つてるねって、一緒にいると元気になるねとか言われて。私ずっと明るく振舞つてた。なんで？なんで会いたくないなんて思えるの？

ハル だから会わなきやいけないんだよ。恨んでるよ憎んでるよ。憎しみだよこれは。許せるわけない。大人になったら大丈夫になるんだか思つてた。なのになんで。俺の人生どうしちゃつたんだって。朝仕事に行く。毎日毎日同じ作業でもせつせと働いて、終わって家に帰る頃には夜になつてる。彼女から電話が来る出られない。誰かがドアをノックする。出られない。誰かが俺のことを呼んでる。出られない。気づいたら公園にいる

アキラ 公園？

ハル 木を見る。ずっと朝までずっと。なんでこんなふうになつちやつたんだって。俺だって結婚する。幸せにしたい。金なんかなくていい。ちゃんとお金貯めて、年金払つて年とっても安アパートでほそぼそ暮らせればそれでいい。子供が産まれて、寝返り打てるようになって、歩けるようになって、しゃべれるようになって。そいつはパパとかお父さんって俺のこと呼ぶんだ

アキラ それがなんなの？

ハル だからあいつを呼ばなきや、せめて知らせてやらないと

アキラ 関係ないじゃん

ハル 関係なくない！一生憎しみを抱えたまま生きていかになくちゃいけないのか？一生？あの人後悔してた。泣いてた。会いに行きたかったけど怖くていけなかつたって。一緒に暮らしたかつたんだって。でも母さんのことを許せなかつたんだって

アキラ　なんで母さんが許せないの

ハル　母さんだって全部が全部何も悪くないなんてことなかったかもしれないだろ。なんで母さんからの話しか知らないのに

アキラ　知らないよ、私達は知らないよ！

ハル　怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖いあの人を許せなかったみたいに、あの人を許せなかったら俺もきつと同じようになる気がする。それで一生後悔して死んでいくことになる。あの人、一生後悔したまま死んでいく。俺は幸せだと思えるようになりたい。普通に生きていることが、寝たり、風呂入ったり、ご飯食べたりすることが幸せだって思えるようになりたい

押入れから父のザックをまさぐりだす。ザックの中か

らは大量の茶封筒や、子供用の封筒などが出てくる。手

紙を部屋にばら撒く。茶封筒を拾い上げ読んでゆく

ハル　「前略。色々ご苦労をかけてしまいました。養育費を出しただけで何もしてないので父親と呼ばれないのかもしれませんが。母親がすぐに再婚して。その人とはばらく暮らしたことも覚えているでしょう。でも、母親が間違いに気づいたとき電話で『私がバカだった』と言われただけで、許せなかったのです。あなたの母親が間違いに気づいたとき、私はあなたたちの母親ではなく、あなたたちの元に帰らなければいけなかったのです。それができなかった。今は九州で一人で暮らしています。私はこれからどんな人生を過ごすのでしょうか？今一度平静な気持ちで会いたいです。私に怒りがあればぶつけてください。またきつと、返事を送ってもらえると信じています。また手紙を送ってもらえると思っています。」

アキラ　(※ハルと同時にばら撒かれた手紙の中から子供用の封筒を拾い上げ手紙を呼んでゆく)「おこづかいどうもありがとう。うちのハムスターのシロに子供が生まれました。子供は九匹生まれました。五匹は死んでしまいました。餌作りが大変です。子供は可愛いです。だから餌作りも頑張っています。十月にピアノの試験があります。」「四月六日の中学の入学式ですが、入学の言葉を全校生徒代表で私が読み上げることになりました。その姿を見て欲しいので入学式に来てくれませんか？」「学校名についてですが私は以前苗字が変わったことはいじめられたことがあります。だから教えられません」「こんにちは。アキラです。元気でやっていますか？アキラは元気でやっています。アキラは風邪をひかずに梅雨を越したいです。今年も高校三年生になって進路は専門学校にいきたいところがあります。将来は自分の好きなことがしたいです。やりたいことが見つかったので専門学校に行きたいです。とてもいいところです。今度何かいい機会があるといいですね。その日が来るのを楽しみにしています。」

いつの間にかミドリが鼻歌を歌っている。アキラは机に伏して眠っている。

押入れが焚き火のように赤くゆらゆらと輝く。

ハルが落ち葉を拾うように手紙を拾い上げてゆく。

拾い上げた手紙を、落ち葉をくべるように赤く輝く押入

れに投げ入れてゆく。風が葉を揺らす音。遠くで鹿の声が聞こえる。

ミドリの鼻歌

12

アキラはいつのまにか眠ってしまっている。ランプを手にしたハルがアキラを起こす。二人は森に入って行くように退場。暗闇。ミドリの鼻歌だけが聞こえている。

ミドリが鼻歌を歌いながら座っている

ハルが入ってくる。喪服だ

ミドリ 着替えないの？

ハル 着替える

ミドリ 塩振った？

ハル うん

ミドリ 疲れた

ハル うん。アキラは？

ミドリ アキラ今日うち来るって。片付け手伝ってる

ハル うん

ミドリ ハルどうする？

ハル 俺は帰るよ

ミドリ そう

ハル うん。旦那さんは？

ミドリ 先帰った

ハル そうか

ミドリ 会社楽しい？

ハル 楽しいよ

ミドリ フォークリフト動かせるくらいになった？

ハル そんな仕事そもそもないよ

ミドリ フォークリフト好きだったじゃん

ハル いつ？

ミドリ 子供の頃

ハル しらないよ

ミドリ 帰ったら洗濯しなきゃ

ハル アキラに頼んだら

ミドリ やだよあの子雑なんだから

ハル ちゃんとできるよ

ミドリ まあねー

ハル アキラはこのままここに住むの？

ミドリ っん、ここ引き払って一人暮らしするって

ハル そっかそっか。

二人は部屋を見渡す

ミドリ そういえば印鑑あったよ。母さんの

ハル 今更？

ミドリ 押入れの中の変なところに入ってた。やっぱりあの子ちゃんと探してなかった。

ハル まあもういいじゃん

ミドリ ねえ何と一緒にあったと思う？

ハル わかんない。なに？

ミドリ 前の苗字の印鑑と一緒にあったの。あの人も写ってる皆の写真と

ハル そうなんだ

ミドリ やっぱり母さん未練あったのかな？

ハル たまたまじゃない？

ミドリ はは。そんな世の中簡単じゃないよ

ハル うん

ミドリ うん

ハル でも

ミドリ っん？

ハル いいんだよ。それで

間

ミドリ ねえ

ハル 何？
ミドリ セックスレスってどう思う？
ハル 何急に。はは
ミドリ ……
ハル 大丈夫？
ミドリ 違うよ
ハル 何が？
ミドリ レスじゃないよ
ハル レスでもいいんだけど
ミドリ いや。レスはまずいね
ハル レスはまずいの？
ミドリ どうしたらいいの？
ハル どう言う意味？
ミドリ どうしたら誘ってくれるの？
ハル 知らないよそんなの。自分から行けば
ミドリ 自分から？どうやって？どうやるの？
ハル 何言ってるの？姉ちゃん
ミドリ なんで教えてよ。子供できたんでしょ？
ハル 子供の作り方は知ってるでしょ。なんだよ気持ち悪い
ミドリ あ、
ハル 何？
ミドリ これは？
ハル え？
ミドリ 止まって
ハル え？
ミドリ 止まってね
ハル 何気持ち悪い
ミドリ 姉に気持ち悪いとか言うな
ハル 何するの？
ミドリ 私のこころを嗅いでみて（耳の裏）

ハル　なんでだよ

ミドリ　いいから嗅いで

ハル　なんでだよ

ミドリ　いいから。じやないと一生後悔するよ。夜の公園に木を眺めに行く羽目になる。ほら

ハル　(ミドリの匂いを嗅ぐ)

ミドリ　どお？

ハル　さあ

ミドリ　さあだつて。ここからいい匂いがしないから、男にも抱いてもらえないんだな

ハル　関係ないよ

ミドリ　関係ないか

ミドリ　(ハルの耳の裏の匂いを嗅ぐ)ほっ

ハル　何してんの!?

ミドリ　まだいい匂い

ハル　え?

ゆき　え?

ハル　え?　あ、びっくりした

ゆき　どうしたの?

ハル　なんかキスしてるのかと思っちゃって

ゆき　するわけないだろ

ハル　ふふ、(ミドリに)すみません

ミドリ　ゆきちゃん色々手伝ってくれてありがとうね

ゆき　いえいえ、なんにも

ミドリ　身体に気をつけてね

ゆき　はい

ミドリ　赤ちゃんどう?

ゆき　順調です。まだ全然小さいですけど

ミドリ　これからだね。触ってもいい?

ゆき　はい

ミドリ　(ゆきのお腹を撫でながら)楽しいこといっぱいあるよ。(ゆきに)赤ちゃん頑張って産んでね

ゆき はい

ハル じゃあいくね

ミドリ あんたちちゃんと助けるんだよ？

ハル わかってるよ

ミドリ (ゆき)なんかあつたらなんでも言つてね。本当に

ゆき ありがとうございます

ミドリ 元気でね

ハル 旦那と仲良くね

ミドリ おやすみ

ゆき おやすみなさい

ハル おやすみ

ハルとゆき退場

アキラがゴソゴソと荷物を作っている
ミドリが来る

ミドリ ごめん遅くなって

アキラ ひさしぶり

ミドリ お邪魔します。ゆきちゃんなんだって？

アキラ ちょっと早いけど産まれそうだから入院だって。ねえなに持って行ってあげたらいいか全然わかんないんだけど

ミドリ とりあえず赤ちゃん用の爪切り持ってきた

アキラ 赤ちゃん爪切るの？

ミドリ 切る切る。赤ちゃん爪伸びるのメチャ早いんだから。ハルは？

アキラ あっちにいる

ミドリ ハルー

ハル おお、姉ちゃんありがとう

ミドリ どんな感じ？

大きな荷物とカメラを下げたハルが奥から登場

ハル とりあえずあいつの着替えと、赤ちゃんの着替えとか準備した。まあなかったらまた取りに来ればいいから

ミドリ 歯磨きとか、厚手の靴下とか、お産用ナプキンとかそういうのもちゃんと入れてあげてる？

ハル うん。大丈夫。入院用のセットを作ったから。備えあれば憂いなし。歯磨きと厚手の靴下とお産用ナプキンは入れ忘れてたけど

ハルはカバンを持ったまま奥へ

ミドリ なにやってんのよ。カメラなんか最悪 아이폰とかでいいんだから

アキラ お兄印鑑は？

ハル 印鑑は大丈夫

ミドリ・アキラ (笑う)

ハル戻ってきて

ハル よし。オッケイ

ミドリ じゃ行こう。多分なんか忘れてるけどなんとかなるでしょ

アキラ 私これ持つ

ミドリ じゃ私こっち持つから

ハル ありがとう

ハル、出口に向かう。二人はハルを見ている

アキラ お兄

ハル なに？

アキラ お父さんだね

ハルはどこか気恥ずかしそうに、微かにうなづく

おわり

